

原爆関係の慰霊碑等の概要（東区内）

令和7年1月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
戸坂01 戸坂01	広島市立高等女学校職員生徒原爆追悼碑 1951年8月6日 東区戸坂千足一丁目12番27号(持明院境内、正門入って左)	教え子を水槽に入れ自らは 掩ひとなりて逝きし師のあり。 万歳の声をいまわに倒れゆきし 清き乙女の赤き血の色。 ゆきゆきてかえらぬ人の面影を しのびて夜半の古枯をさく。 昭和26年8月6日 宮川雅臣(背面) この追悼碑は、昭和20年8月6日学徒動員中原爆によって散華した広島市立高等女学校職員生徒679柱のみ霊を悼み、臨終の地近くの広島市木挽町持明院に建立、41年12月当地に移されたもので、元安河畔の市女慰霊碑とともに、本会寄進の持明院ご本尊聖観音像の大慈大悲のみ光により、永く安らかに涅槃の境に鎮まり給えと、遺族の悲願がこめられている。 昭和52年8月 33回忌 広島市女原爆遺族会(横の石碑)	広島市女原爆遺族会	広島市立第一高等女学校(現在の舟入高等学校)職員・生徒は木挽町(現在の中島町。爆心地から500メートル)で建物疎開作業中に被爆し、全員犠牲となった。戦後、犠牲となった地近くの木挽町の持明院住職が犠牲者の遺骨を発見、同院に安置供養する。その縁で、1951年、広島市女原爆遺族会により持明院に碑が建立され、1966年、現在地への同院の移転に伴い移設された。なお、この碑と同様に広島市立第一高等女学校職員・生徒の犠牲者を慰霊する碑として、「広島市立高等女学校原爆慰霊碑」(中区)がある。
戸坂02 戸坂02	戸坂供養塔 1945年10月 東区戸坂桜上町20番(正池平墓地内入口付近)	昭和20年8月6日原子爆弾が投下され広島市は壊滅し多くの被爆者が陸軍病院戸坂分院(戸坂小学校等)に避難し死亡された方々の遺骨を仮埋葬しその標識としてこの供養塔が建立された(横の石碑の正面) 供養塔は昭和20年10月に建てられたものであるが戸坂村が広島市に合併して40周年の節目に当り説明文碑を建立して後世に残す 平成7年4月10日 戸坂連合社会福祉協議会(横の石碑の側面)	戸坂村	戸坂地区は爆心地から比較的離れているため、原爆による大きな被害はなかった。被爆後、市内中心部から避難してきた多くの被災者の救護に村民を始め、戸坂国民学校(現在の戸坂小学校)に所在していた陸軍病院戸坂分院の軍医などが当たった。地区内で死亡した約600人は、村民などにより茶毘に付された。1945年10月、遺骨が長尾山に仮埋葬され、そこへ標識として供養塔が建てられた。1959年4月、遺骨は平和記念公園内の原爆供養塔に納められた。1995年4月、供養塔が現在地に移設された。
牛田01 牛田01	牛田供養塔 1950年 東区牛田中二丁目3番(牛田公園内)	—	任都栗司氏	牛田地区は原爆の被害は大きく、地区住民の約半数が死傷した。また、市内中心部から多くの被災者が避難してきたほか、上げ潮で無数の死体が流れ着いた。こうして、地区では700人以上の犠牲者が茶毘に付されたと言われる。これらの犠牲者を慰霊するため、1950年、供養塔が建立された。その後、1969年には慰霊碑が、1970年には観音像が、それぞれ建立された。毎年8月5日、牛田地区の三つの学区社会福祉協議会による追悼式典が行われている。
尾長01 二葉01	二葉山平和塔 1966年8月5日 東区光が丘1番	この広島市二葉山平和塔は、人類の幸福と戦争のない世界の恒久平和を念願し、史上最初の原子爆弾の犠牲者二十数万の冥福を祈り、平和の聖者釈尊の御真骨を奉祀して建立されたものであります。昭和29年4月、日本山妙法寺主藤井日達聖人により地鎮祭が行われましたが、その後、12年を経て昭和40年、地元の開拓団の方々が、各自の土地の一部を売却して建設資金をつくり、日本山妙法寺や有志の協力により完成し、昭和41年8月5日に落慶式と広島市への寄贈式が行われました。塔内にはインドのネール首相より贈られた仏舍利(※)が一粒、モンゴル仏教徒やセイロン国(現スリランカ国)より贈られた各一粒も併せて奉安されています。正面の仏像は、昭和41年5月、セイロン国から贈られたものです。また県市民の平和の願いをこめた祈念石数万個も収納されています。 なお、標高139米の山頂のこの地は、半地下式的大型高射砲四門がすえられていたところです。(案内板) ※「仏舍利」…釈迦の遺骨とされるもの。	日本山妙法寺、地元有志	世界の恒久平和を念願し、原子爆弾の犠牲者の冥福を祈るため、建立された。
尾長02 二葉02	尾長慰霊碑 1968年12月 東区曙二丁目4番(尾長公園内)	慰霊 広島市長 山田節男	尾長町内会慰霊碑建設委員会	尾長町(爆心地から2.9キロメートル)、曙町四丁目(爆心地から3.5キロメートル)、曙町五丁目(爆心地から3.7キロメートル)の原爆犠牲者を慰霊するため、碑が建立された。これらの町では1945年末までに31人が犠牲となった。
尾長03 二葉03	松本商業学校職員生徒慰霊碑 1966年7月 東区尾長西二丁目12番1号(瀬戸内高等学校内、グラウンド西)	慰霊碑	松本商業高等学校	松本商業学校は、1944年、国の政策により松本工業学校に転換した。同校では、動員先の工場から再動員され、水主町(現在の加古町)の県庁付近(爆心地から900メートル)へ建物疎開作業に出動した1年生を中心に大きな被害を受けた。犠牲となった職員・生徒50数人を慰霊するため碑が建立された。1972年、瀬戸内高等学校と改名した。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-261-1296)で)
(中区) 白島01 (中区) 幟町01	二葉の里原爆慰霊碑 1966年8月5日 東区二葉の里二丁目1番18号(東照宮参道、石段手前)	昭和20年8月6日の原爆により罹災者境内に溢れ救護所設けらる 偶境内に湧井在り この清水を飲みて幽明異にする者多し 是に哀愍の情に堪えず 茲に慰霊碑を改建して永く哀史を伝えんとす。 昭和41年8月5日 東照宮宮司久保田幸重誌(背面)	東照宮	東照宮(爆心地から2.1キロメートル)は原爆により本殿と拝殿を焼失するなど大きな被害を受けた。当日、境内は市内中心部から逃れてきた多くの被災者であふれ、石段下には臨時救護所が設けられた。二葉の里一帯に避難してきた人々は次々と亡くなり、茶毘に付された。1947年ごろ、東照宮宮司により犠牲者を慰霊する木碑が建てられた。1966年、社殿再建に併せて現在の碑に建て替えられた。
(中区) 白島02 (中区) 幟町02	原爆65周年追憶碑 2010年8月6日 東区二葉の里二丁目1番18号(東照宮参道、石段手前)	コハ今後生キノビテコノ有様ヲ ツタヘヨトノ命ナランカ 原民喜 平成22年8月6日 広島市長 秋葉忠利書	東照宮	作家の原民喜氏は、幟町の生家で被爆し、7日夜、親族とともに東照宮境内で一夜を過ごした。その際、被爆当日の惨状の様子をメモに残した。碑には、メモの抜粋などが銘板に刻まれている。

(注)原則、漢数字は算用数字で表記しています。 令和5年2月更新